

1 意見聴取結果（まとめ）の説明

- 今後の進め方に関する市民検討会委員への意見聴取結果について説明

ポイント

市民検討会委員の皆さんからいただいた主な意見をまとめたものです。
今回は、自分の意見の反映状況に加え、他の委員の意見にも目を向けてみてください。

2 今後の進め方に関する協議

- 12月末までの進め方(案)、第13回以降の検討内容(たたき台)について説明
- 12月末までの進め方に関する質疑応答・意見交換

⇒ **12月末までの進め方を決定**

ポイント

「意見交換」では、市民検討会委員お一人ずつ、
①、②、③のどの進め方が良いと考えているか、
他の委員の意見やたたき台を踏まえながら、
ご発言をお願いさせていただきます。

- 第13回以降の検討内容に関する質疑応答・意見交換



今後の進め方に関する市民検討会委員への意見聴取結果

1 早い時期にパターンに関する議論を終え、より具体的な検討を始めたところで、次期 市民検討会委員へ引き継ぐ。(2人)

- 図書館敷地中心パターンと鹿沼公園中心パターンの折衷案が現実的
- 各施設の配置や機能を検討
- 折衷案に関する事業費を市が積算(実現可能な範囲)

- 内容は出尽くしたことや、市の方向性を踏まえ、公園用地と図書館敷地を利用した複合施設の検討
- 課題を整理し、複合施設の検討を具体化

パターンについて
• 公園中心と図書館中心の折衷案
検討内容
• 事業費について • 施設の配置や機能 • 課題の整理

2 本年12月末までに、パターンに関する議論を尽くし、より具体的な検討は、次期 市民検討会委員に委ねる。(14人+3人※)

※出欠等を確認する際に、新たに意思表示があった人数を追加

- ⑬: これまでの検討、市民アンケート、行革プランの方向性を踏まえ、実現可能な案を検討し4案→1案に。また、他の3案や市民意見から「採用すべき提案」を加え多角的に検討
- ⑭: 事業費の算出、課題整理など実現可能な提案を目指して議論
- ⑮: 施設管理者、利用者団体の意見を踏まえ案を修正

- 12月までにパターンの方向性を決めていく
- アンケートの読み込み
- 施設の配置、可能な予算
- 施設内の機能

パターンについて
• 4つの検討パターンから絞り込む • 先に事業費を示した中で検討 • 現実的にできること、できないことを明示
検討内容
• 論点を絞った検討

- 4つのパターンに優先順位をつけて議論し、ゴール(落としどころ)を設定する
- 行革プランのバブコメにおける市の考え方に賛同する

- 4パターンを比較し、実現可能なものに絞り込む
- 財源確保について比較できるようなパターンをより明確化
- 施設の利用イメージを明確化
- 市民検討会の責務・発足した経緯を再確認

- 想定される事業費を示し、公共施設の再整備を早く進めて欲しい。
- 先に予算を示し、その中での検討を行う。(事業案が先なのか、予算案が先なのか)

- 第15回までに方針を明確化(公園内に公共施設を設置するか否か、淵野辺駅南口に賑わいを求めるか否か、跡地は売却するか緑化するか)
- 行革プランありきではなく、市民の意見・提案に対して、財政的に可能かどうかを考える
- 自由意見(主な意見として抽出)の比率

検討内容
• 事業費について(実現可能性) • 他の案から採用できる提案 • 施設管理者や利用者の意見を踏まえた修正 • 譲れないポイント • 公園内への公共施設設置の可否 • まちのにぎわいか、開放的な環境か • 跡地は売却するか緑化するか • アイデアの組み合わせ、組み替え • 施設利用イメージの明確化

- 4パターン→2パターン→1パターンに絞って検討

- コスト面や技術的な可能性など、各検討パターンの可能性を話し合う(専門家の意見を聴きながら)
- アイデアの組み合わせ、組み替えを考える
- アンケート自由意見、バブコメ意見を受け止める
- まちづくり会議と一緒に話し合う
- 12月未までの回数・時間・期間延長
- 次期市民検討会について(現委員の意向を反映)

- ⑯: 今後の進め方を協議、現実的にできること・できないことを明確化(財政面を含む)
- ⑰: パターン案の修正、メリット・デメリットの再確認
- ⑱: 各パターンの説明文を作成
- ⑲: 実現可能なパターンを選択or優先順位付け、課題抽出

- 現在地維持が複合施設かとある程度絞り込んでから、実現可能性を踏まえた検討
- 市としての考えの発言も必要

- 公園内への複合化かそれ以外(図書館敷地or公民館・駅前敷地)を決定(折衷案・順位付け可)
- 譲れないポイントを1人2~3個出す
- 公共施設のサービス面に関する検討(蔵書、自習室、貸し出しサービス改善)
- 検討会の目的整理、進め方の検討

3 令和4年1月以降も、次期 市民検討会委員により、パターンの議論を継続する。(1人)

- 4案の内容が十分に吟味されていない
- 全ての検討パターンでできるアイデアをまとめる、今期の反省をまとめる
- ⑳: 市民検討会における意見交換の方法、検討時間が足りない場合の対応、(検討会の運営方法、地域住民への広報の在り方)

パターンについて
• 4案の検討が不十分
検討内容
• 全ての検討パターンでできるアイデア

- 12月末までにどこまで検討を進めたいかという点から、意見を①～③に分類したところ、②に分類される意見が最も多く、意見の約8割は、「パターンに関する議論を尽くす（パターンの絞り込み）」ことを希望していると考えられる。

2 本年12月末までに、パターンに関する議論を尽くし、より具体的な検討は、次期市民検討会委員に委ねる。（14人+3人）

パターンについて

- 4つの検討パターンから絞り込む
- 先に事業費を示した中で検討
- 現実的にできること、できないことを明示
- 論点を絞った検討

検討内容

- 事業費について（実現可能性）
- **他の案から採用できる提案**
- 施設管理者や利用者の意見を踏まえた修正
- 譲れないポイント
- 公園内への公共施設設置の可否
- まちのにぎわいか、開放的な環境か
- 跡地は売却するか緑化するか
- **アイデアの組み合わせ、組み替え**
- 施設利用イメージの明確化

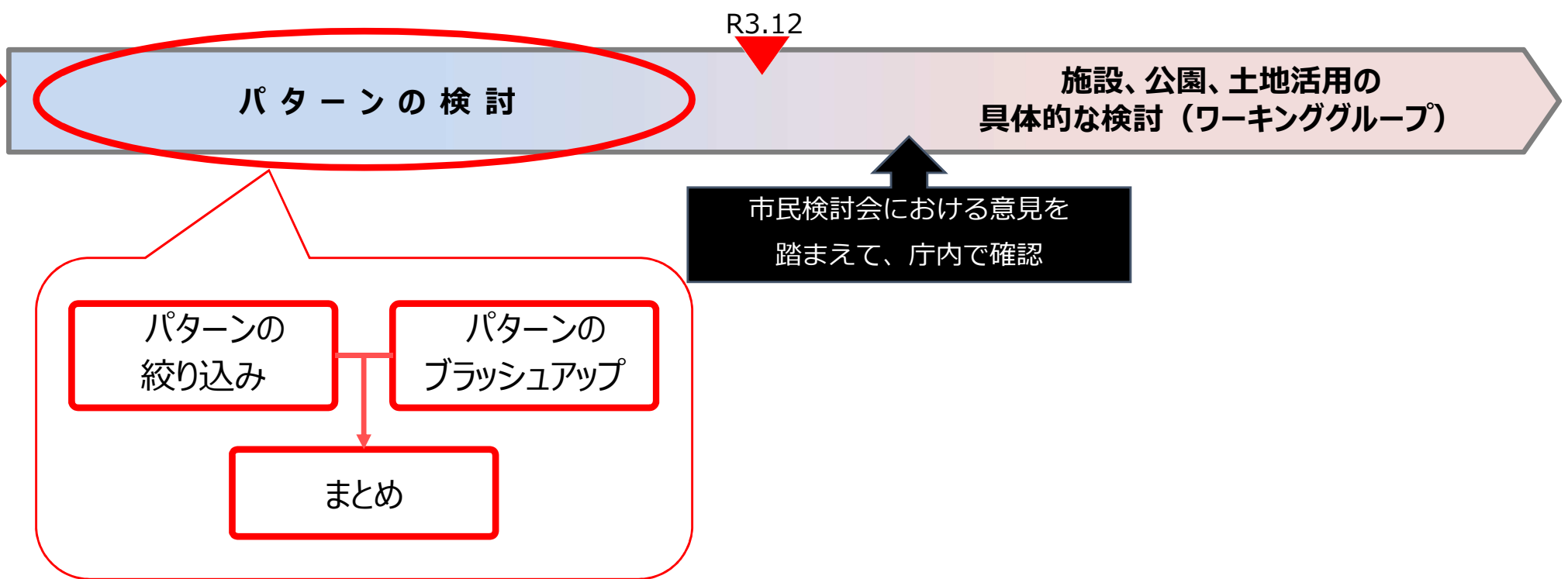
- ①の考え方も、パターンを絞り込むという点では、②と同じ方向性であると整理できるのではないかと。
- ②の「他の案から採用できる提案」、「アイデアの組み合わせ、組み替え」と言った各検討パターンを比較しながらパターンのブラッシュアップを行うという作業においては、③の「複数のパターンで共通するアイデアをまとめる」という視点も必要であり、②の中で検討すると整理できるのではないかと。



今後の進め方 - 12月末までの進め方（案） -

12月末までの進め方（案）

- ① 早い時期にパターンに関する議論を終え、より具体的な検討を始めたところで、次期 市民検討会委員へ引き継ぐ。
- ② 本年12月末までに、パターンに関する議論を尽くし、より具体的な検討は、次期 市民検討会委員に委ねる。
- ③ 令和4年1月以降も、次期 市民検討会委員により、パターンの議論を継続する。





今後の進め方 - 第13回以降の検討内容（たたき台） -

現在地維持パターン

図書館敷地中心パターン

鹿沼公園中心パターン

公民館敷地中心パターン

折衷案（公園+図書館）

<パターンの絞り込み>

市民検討会で今後検討するパターンを絞り込む

【絞り込みのポイント】

- ・各検討パターンのメリット、デメリット
- ・第11回市民検討会の内容
- ・今後の進め方に関する意見聴取結果
- ・想定事業費を踏まえた実現可能性
各検討パターンの事業費（建設費用、維持管理費用、運営費用）や効果額を概算で提示

<パターンのブラッシュアップ>

パターンの精度を上げる

【ブラッシュアップの内容】

- ・施設配置や、組合せを決定
- ・他のパターンから採用すべき提案の追加等
- ・メリットやデメリット、説明文の修正

<まとめ> 市民検討会でまとめた検討パターンの最終確認

市民検討会で今後
検討するパターン

+

- ・施設利用イメージの明確化（活動しているストーリー）
- ・附帯意見（今後、市民検討会で考慮して欲しいこと）



市民検討会における意見を
踏まえて、庁内で確認



<次期 市民検討会（令和4年1月以降）>

施設、公園、土地活用の具体的な検討（グループワーク）